

農村地域再生のためにJAは何を考えるべきか
— 6次産業化、農協 —

福島大学大学院経済学研究科
地域産業復興プログラム
(ふくしま未来食・農教育プログラム)
守友裕一

依頼されたテーマ

6次産業化と新農政への対応
— 地域おこしの各地の現状と農業再生の道を探る —

- 現在の私の仕事

原子力災害からの復興のお手伝い
産消提携で全農地の放射線物質分布マップの作成
(JA新ふくしま)

特定避難勧奨地点からの回復を目指す
(伊達市霊山町小国地区)

地域協議会による災害復興プログラム
(二本松市・NPOゆうきの里ふるさとづくり協議会)

避難指示区域における農地保全・営農再開に向けて
(飯舘村大久保外内地区)

- 現職の前10年間・・・栃木在住・・・あまり農協とのお付き合い無し
- どちらかといえば集落、小集団を対象として住民参加型の地域づくりの調査研究
- この4月から福島農協、生協等と復興・再生支援活動
- そこで今日のお話をどうするか
- 基本に立ち返って考えてみる

豊かさとは何か 元気な地域を作っていく視点

三つの側面から考える

- 1 新しい経済学の考え方から
人間のもつ潜在能力の発揮
- 2 経済学から政治学へのひろがり
参加の重要性
- 3 社会関係資本の考え方から
信頼、協力、参加、義務

新しい経済学の考え方から

- 人間はみな違う

(年齢、性、医学的条件、家族や社会における立場など)

☆ 違う人間に共通する豊かさや福祉の向上を
はかる指標は何なのだろうか

◎ 差がある中でそれぞれのひとが持っている

潜在能力の発揮 (ケイパビリティ)

潜在能力を発揮するための選択の自由、

選択のための機会と条件の整備

潜在能力の発揮

アマルティア・センの考え方

経済学から政治学への拡がり

- 個人の幸福度と一人当たり国民所得、失業率、インフレーションなどは相関関係があるのだろうか



無関係ではないが統計的には有意ではない



では何に関係があるのか



公的な意志決定に直接参加する可能性が増せば、
幸福の増大に大きく寄与する

参加の重要性

ブルーノ・S・フライ、アロイス・スタッツアーの考え方

ソーシャルキャピタル (社会関係資本)の考え方から

- 市民、住民が様々な分野で活発に活動し、
平等な政治が行われている地域

//

相互信頼、社会的協力、市民的参加、市民的義務感が
絡み合いつつ、社会的効率性を高めている

//

地域の活性化には
相互信頼、協力、参加、義務

などが重要

ロバート・パットナムの考え方

農山村の抱える問題 四つの空洞化

- 1 人の空洞化
過疎化の進行、人口の社会減から自然減へ
- 2 土地の空洞化
親世代が高齢化、引退→農林地の管理主体の不足
農林地の荒廃化
- 3 ムラの空洞化
寄り合い、集落活動の停滞、活力の喪失
- 4 誇りの空洞化
画一的な都市的価値観の拡がりの中で、
農山村で生きる誇りが失われつつある

地域再生のための四つの柱

- 1 参加の場づくり、住民総参加の道の追求
[場]
- 2 暮らしのものさしづくり、
地域に生きる誇り、価値観の再構築
[主体]
- 3 内発的なアイデアの形成による
お金と循環づくり、つながりづくり
[条件]
- 4 活動の柔軟な継続、持続性の構築
[時間]

1 参加の場づくり、 住民総参加の道の追求

- 参加型の地域づくり
例：地元学
- 西の地元学 熊本県水俣市の実践
地元にあるものを探し、新しく組み合わせたり
して、町や村の元気を作っていく
- 東の地元学 東北地方の実践
ないものねだりからあるもの探しへ
いたずらに格差を嘆き、都市と比べて「ないものねだり」の愚痴をこ
ぼすより、この土地を楽しく生きるための「あるものさがし」
- 参考：集落点検ワークショップ
地域活性化ワークショップ

東北の地元学から

- 「よい地域」であるための7つの条件
- 1 よい**仕事**の場をつくること
- 2 よい**居住環境**を整えること
- 3 よい**文化**をつくり共有すること
- 4 よい**学び**の場をつくること
- 5 よい**仲間**がいること
- 6 よい**自然と風土**を大切にすること
- 7 よい**行政**があること

結城登美雄の考えから

(参考)

「美しい村などはじめからあったわけではない。美しく生きようとする村人がいて、村は美しくなったのである」

柳田國男『都市と農村』(1929年)

2 暮らしのもののさしづくり、 地域に生きる誇り、価値観の再構築

• 地域の文化の再評価

食文化の再評価と地域の誇り、自給畑再評価
各地に広がる食の文化祭

宮城県宮崎町(現加美町)

全国初の食の文化祭

岩手県大東町(現一関市)

やまあいの食文化に光を当てる

鹿児島県霧島市

「子や孫に残したい霧島の食は何ですか」

6次産業化の基礎の発見へ

3 内発的なアイデアの形成による お金と循環づくり、つながりづくり

- 地域の文化、資源、福祉などに付加価値をつけ、地域活性化の基礎づくり
- 1 農林業の多角化、複合化
1次×2次×3次=6次産業化
- 2 環境、交流、経済のつながり
オーナー制、中山間地域等直接支払制度
CSA(地域・コミュニティが支える農業)
- 3 有縁の社会づくり
例:かみえちご山里ファン倶楽部(新潟県上越市)
有縁の米・・・不作時の分配、子供の学び、地域行事への参加
移住相談、災害疎開などをセットで提案
鳴子の米プロジェクト(宮城県大崎市)
「子供を大学にやれる米価を！」

4 活動の柔軟な継続、 持続性の構築

- むらの伝統文化の継承から学ぶ
例:伝統的な祭りの学校教育の中への取り組み
鹿児島県阿久根市、郷中教育と脇本山田楽
例:行事内容は変えずに一部を変化させて継承
愛知県東栄町の花祭り

どういう組織体制、どういう分担と責任で

維持してきたのか(信頼、協力、参加、義務は)

(社会関係資本的に考えてみる)

そこから地域を元気にする方法を学べないか

農協は何をなすべきか

- 以上の事例は、農業・農村全体の動きとしては小さなものであるが、農協との接点、協力が少ない
- 農村、地域社会をトータルに支える農協としては何をなすべきなのか
- かつて言われた「一国二制度」的な視点がいるのではないか
- そうした動向に対応し、農協の持つ力をバックに未来を切り開いていくには何が必要なのだろうか